

# 道徳学習指導案

4年1組 30名 指導者 小 峯 三 朗

本授業は、以下のような視点で授業を行うものである。

- 問い直す活動において、子どもの感じ方や考え方を、教師の発問や友達との話し合い活動を通して、広げたり、深めたりすることができたか。
- あたためる活動において、他者の感じ方や考え方を称賛し合い、道徳的実践意欲を高めることができたか。

## 1 主 題 名 社会のきまりを守る（資料名「それは、だれの作ひん」〈読み物－東京書籍〉）

## 2 ね ら い

社会のきまりが必要な理由を知り、進んで守ろうとする態度を養う。（4－① 公徳心，規則の尊重）

## 3 主 題 について

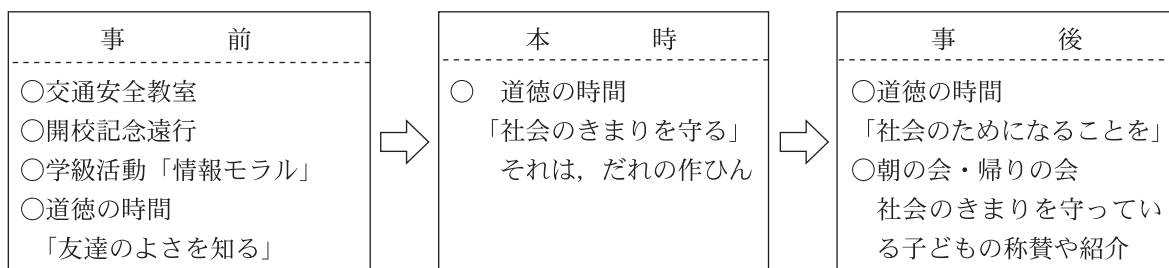
### (1) 主題の価値

本主題は、中学年の内容項目4－①「約束や社会のきまりを守り、公徳心をもつ」で、子どもたちが生活する上で必要とされる公徳心や社会規範を守り、それらの精神を日々の生活の中に発展させる子どもたちを育てようとする内容項目である。これは、低学年の4－①「みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守る」から発展し、高学年の4－①「公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」に発展するものである。

人は一人で生きているのではなく、社会生活の中でお互いの存在を認め合いながら生きているのである。お互いを尊重し合い、よりよい社会生活を営んでいくためにも社会的なきまりやマナーは重要な役割を担っている。しかし、よりよい社会生活というものは、法によって規定され保障されることによるのみ維持されるのではなく、一人一人が道徳的価値を自覚し、日常生活の中で真に主体的なものとしてとらえ、確立させていくことが重要である。

この期の子どもたちは、きまりを守らなければならないことについておおよそ理解はしているが、なぜそうしなければいけないかはあまり深く考えていない。ややもすると、いけないと分かっているが、自己中心的な行動をとってしまう傾向もある。今後、子どもたちは、情報社会も含めた社会生活を営んでいくことから、全ての社会のきまりについて考え、社会生活を気持ちよく送るために、様々なきまりがあることに気付くことができるように指導していくことが大切である。

### (2) 他教育活動との関連



### (3) 児童の実態と資料について

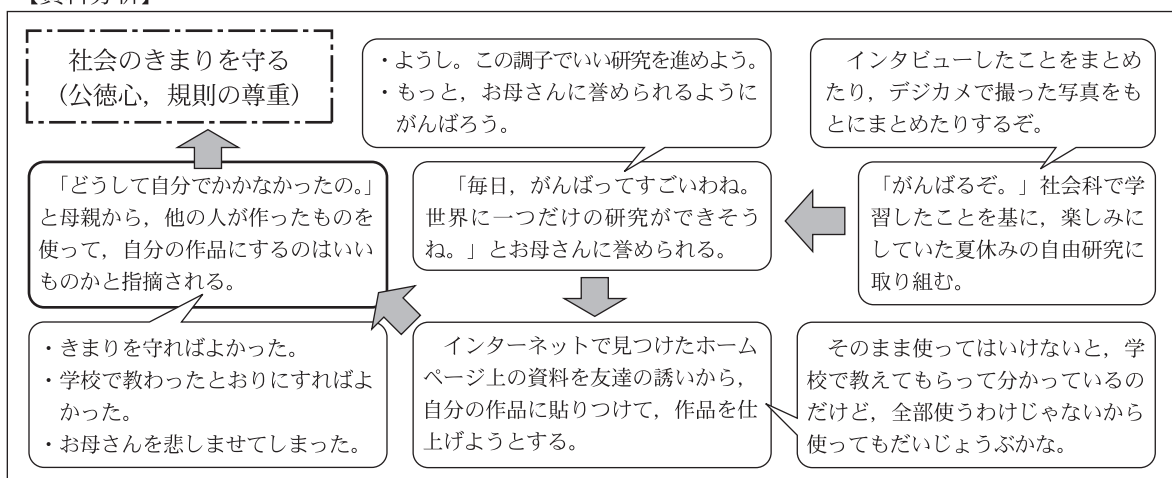
平成22年4月14日 調査人数30名

<b>① 社会生活の中できまりを守れたこと【子どもの望ましい経験】</b>
ある…22名      ない…2名      思い出せない… 6名 〈経験〉・ろうかを走らなかった。・時間を守れた。 〈そのときの気持ち〉 ・しっかりきまりを守れて、気持ちよかった。
<b>② 社会生活の中できまりを守れなかったこと【心の弱さ】</b>
ある…19名      ない…7名      思い出せない… 4名 〈経験や理由〉 ・あそびたかった。      ・面倒くさい。      ・他にやりたいことがあった。

③ 社会生活の中できまりを守りたいと思うか。【子どもの願い】
思う…30名 　　思わない…0名
④ 社会生活の中のきまりを守っていくためにはどのような気持ちが必要だと思うか。【見方や考え方】
・きまりを守ろうとする気持ち　・やさしい気持ち　・相手のことを思う気持ち
⑤ 社会生活の中のきまりを守ろうと生活しているか。【自己評価】
・いつもできている。…5名　・できたりできなかつたりする。…22名
・あまりできていない。…3名
⑥ インターネット上に出ている写真や文章を、学習にそのまま使ったことがありますか。
【情報モラルに関するアンケート】
・はい…5名　・いいえ…25名
⑦ 他の人の作品などを、断り無しに勝手に使ったりしてはいけないきまり（著作権）を知っていますか。
・知っている…0名　・知らない…23名　・聞いたことはあるが、意味がわからない。…7名

③・⑤の結果から、「きまりを守りたい」という願いはあっても、ほとんどの子どもが、「きまりを守る生活がいつもできている」ということではないということが分かる。そこで、きまりを守るための心構えを考えさせたり、きまりを守るよさを十分に感じとらせたりし、あたためる活動において、道徳的实践意欲を高めることができるようにしたい。また、⑦の情報モラルに関する項目から、ほとんどの子どもが著作権について、正しく理解されていないことがわかる。そこで、学級活動において、発達段階に応じた情報モラルの具体的な学習を進め、道徳の時間と関連を図りながら「公德心、規則の尊重」の価値に迫り、情報の発信や情報をやりとりする場合のきまりやルールを大切にし、守っていかうとする気持ちに気付くことができるようにしたい。

【資料分析】



4 展開に当たって

問い直す活動では、追求の視点が明らかになった子どもたちに、「ぼく」が、友達に「これを貼ればいいよ。」と言われた時の気持ちを考えさせることで、インターネット上の資料をそのまま使ってはいけないと分かっているにもかかわらず、自分の作品を見栄えよくしたいという「ぼく」の心の二面性に共感できるようにする。ここでは、子どもの多様な感じ方や考え方を、広げたり、練り深めたりするために、子どもの反応を生かしながら発問(ゆさぶり・切りかえし発問)したり、考えるヒントを与えたり、視点の転換や方向付けをする発問を展開していく。そして、お母さんのことばから、ぼくの気持ちを追求し、「公德心、規則の尊重」の価値に迫らせていく。ここでは、各自の考えを「道徳ノート」に書かせ、それぞれの感じ方や考え方を評価し、教師が意図的に指名しながら類型化して板書する。また、情報の発信や情報をやりとりする場合のきまりやルールを大切にし、守っていかうとする気持ちに気付くことができるようにする。

あたためる活動では、友達の感じ方や考え方を紹介し、称賛し合うことで、新しい感じ方や考え方に気付いたり、更に深めたりすることができるようにし、道徳的实践意欲を高め合うようにする。

5 本時の展開

[ ] 子どもの意識



教師の手立て

※評価



情報モラルの視点

時	主な学習活動と教師の手立て・評価	
(分) ↑ 7 ↓	<p>【見つめる活動】</p> <p>1 きまりを守れなかった体験について考え、意識と行動の矛盾に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下を走った。</li> <li>・帰宅時刻を守れなかった。</li> <li>・順番を守らなかった。</li> </ul> <p>きまりを守るには、どのような気持ちが必要だろうか。</p>	<p>⑤ 日常生活のきまりのある場面の写真</p> <p>活用ボードから、自分たちも日ごろからいろいろなきまりの中で生活していることに気付かせ、きまりを守れなかったときの気持ちを想起させ、問題意識の焦点化を行う。</p> <p>⑥ ワードカード、場面絵</p> <p>何日もかけてインタビューをしたり、デジタルカメラでお店の写真を撮ったりする「ぼく」の楽しみながら自由研究を行う積極的な姿勢を理解させることで、自分の手で完成させたいという気持ちについて気付かせる。</p> <p>使ってはいけないと分かっているけど、自分の作品を見栄えよくしたいというぼくの心の二面性に共感できるようにする。</p>
↑ 23 ↓	<p>【問い直す活動】</p> <p>2 資料「それは、だれの作ひん」を読み、「ぼく」の気持ちを話し合う。</p> <p>(1) お母さんに誉められて、ますますやる気が出てきたぼくは、どのような気持ちだったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この調子だ。完成までがんばろう。</li> <li>・お母さんに誉められるようにがんばろう。</li> <li>・みんなが驚くような自由研究にしよう。</li> </ul> <p>(2) 「これを貼ればいいよ。」と言われた時、ぼくはどんな気持ちになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では、やってはいけないと教えられたなあ。</li> <li>・でも、貼りつけたらカッコいい作品ができそうだなあ。</li> <li>・友達もこんなに言ってくれているし、大丈夫だろう。</li> </ul> <p>(3) お母さんのことばから、ぼくは、どんな気持ちになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア なぜ、あの時、貼るのをやめなかったのだろうか。</li> <li>イ お母さん、ごめんなさい。</li> <li>ウ きまりを守らないとみんなが困る。</li> </ul>	<p>※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。</p> <p>ア 自分の気持ちを中心とした考え方                      イ 他人への思いを中心とした考え方                      ウ 集団・社会への思いを中心とした考え方</p> <p>情報の発信や情報をやりとりする場合のきまりやルールを大切に、守ってほしいとする気持ちに気付くことができるようにする。</p> <p>中心発問について「道徳ノート」に書いたことをもとに、全体で類型化し、感じ方や考え方を広げることができるようにする。</p>
↑ 8 ↓	<p>【振り返る活動】</p> <p>3 資料を通して考えたことや自分のきまりについての体験を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会でも日常生活でも、きまりを守っていくとみんなが楽しく生活できるんだな。</li> </ul>	<p>本時の学習を通して、道徳的価値に関して思ったことや考えが変わったことなどを書くように助言する。その際、実態アンケート等をもとに自己の体験を想起することができるようにする。</p>
↑ 7 ↓	<p>【あたためる活動】</p> <p>4 友達の感じ方や考え方を紹介し、道徳的実践意欲を高め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしも、〇〇さんの考えを大切にしていきたいな。</li> <li>・〇〇さんの～な考え方もあるんだな。</li> </ul> <p>5 教師の説話を聞く。</p>	<p>自分の感じ方や考え方を友達の感じ方や考え方と比較させることで、新しい感じ方や考え方に気付いたり、更に深めたりすることができるようにする。</p>